

【事例の概要】

氏名	三田 秀雄 82歳 (男性)	区分	事業対象者
病歴	67歳…高血圧症 79歳…脳梗塞 (入院歴あり) 81歳…脳血管性認知症		
家族構成	<p>夫婦2人暮らし 妻：76歳</p> <p>長男：54歳 (独身)。仕事が忙しい (3勤務制の仕事)。長男宅は秀雄さん宅から車で15分。</p> <p>次男：52歳 (別居、既婚)。妻、48歳。子供3人。次男宅は秀雄さん宅から徒歩15分。</p> <p>週に1回は、次男の妻が本人のところに来てくれ、妻のストレス軽減のために、本人の話し相手をしている。</p>		
生活歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30年前に現在の土地に家を購入し、転入。</li> <li>・世話好きな性格であったため、数年後には自治会長を引き受け、脳梗塞発症前までは老人会の会長も長く務める。</li> <li>・コーヒーが好きで、よく喫茶店に行き、出かけるとどこかの喫茶店に入ってはコーヒーを注文することが日課である。</li> <li>・物忘れがひどくなるまでは、地域の活動にも積極的に出向き、囲碁やカラオケ、グランドゴルフなどをしていたが、物忘れの自覚もあり、みんなに迷惑かけたくないと、地域の活動への参加を避けている状況である。</li> </ul>		
認知症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見当識障害は、日付・時間の感覚がつかみにくくなってきている。</li> <li>・記憶障害は、短期記憶の障害があり、半時間前の出来事を忘れていくが増えている。同じことを何度も聞くようになり、妻は少々疲れている。</li> <li>・理解・判断力の低下については、簡単な問にすると自身の言葉で返答は可能。文章が長くなると会話の途中で流れについていけなくなり、自分から異なることを話し出してしまふ。</li> <li>・実行機能障害については、慣れ親しんだ行動は可能で、洗濯物を取り入れて・・・と言われれば、取り入れて、簡単なタオルなどはたたんでいくことはできる。最近、テレビのリモコン操作が時々できないことがある。</li> </ul>		
相談までの経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物忘れが増えてきており、今まで、近隣の人たちと趣味を楽しんだりしていたが、それもしなくなってきている。</li> <li>・家にいると同じことを何度も話す、聞くなどが、妻の負担になってきており、そろそろデイサービス等に通ってもらった方がいいのだろうか？と不安になり、妻が地域包括支援センターに相談に来所。</li> <li>・今までも一般の介護予防事業や二次予防事業にも参加していたが、物忘れの進行を妻が心配し、そろそろ要介護認定が必要ではないかと思ってのことである。</li> <li>・本人は脳梗塞の既往があり、小さな梗塞が多々あるため、脳血管性の認知症が進行してきたというのが医師の見立てであり、日常生活において、刺激のある日々を送るように何か考えなさいと妻は医師から言われている。</li> </ul>		
最近の本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅前は急な坂であるが、本人はコーヒーが好きで毎日、フラットと外にでて目についた喫茶店に入り、コーヒーを飲んで帰ってくるのが楽しみである。</li> <li>・ひとりで外出し、道に迷うこともあるようだが、自宅周囲の大きな建物の名前等は覚えており、「そこに行きたいから道を教えて」と道行く人に尋ねる力はある様子で、徘徊に至ったことはない。</li> </ul>		

<p>最近の本人の様子 (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また、出かけるときはいつも携帯を首から下げるように妻が工夫しており、自身で妻に電話をかけることはできないが、かかってきた電話を受けることはできるため、帰りが遅い時には、妻が「そろそろ帰っておいで」というような電話を携帯に入れることによって、一人で帰ってくる事ができている。</li> <li>・声をかけてもらえば、その行動に移ることはできる。</li> <li>・体を動かすことが好きだったり、人の世話をを行うことが好きである。</li> <li>・被害妄想や暴言等はなく、穏やかで笑顔が多く、他者への攻撃性はない。元々家のことをなんでもしてくれる夫であったため、妻はいろんなことを自身で決定していかなければならなくなった最近の生活にやや疲れ気味なところもあり、次男の妻が週に1回来てくれるのを待ち望んでいる状況である。</li> <li>・認知症についても妻はまだ、十分な理解ができておらず、「どうして同じことばかり言うのかしら?」とか「さっきも伝えたのに、また聞いてくるのでイラッとするの」など、支援者にこぼすこともある。</li> </ul>
<p>身体の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳梗塞後遺症と認知症の進行により、前傾姿勢でヒョコヒョコと歩き、転倒のリスクが高い。</li> <li>・水分は1日、1,000 cc以上飲んでおり、コーヒーが日に3回の600cc、お茶400cc、他味噌汁等で200ccの合計1200ccは軽く飲んでいる。</li> <li>排泄は便が2日に1回、尿が1日7回程度で夜間が2回。失敗はない。</li> <li>【ADL】 起き上がりはできる。歩行も屋内外自立。 片足立ちはバランス力が低下しており何かにつかまらねば不可。 入浴の習慣は残っており、一人で洗身も可能。ただし、「お風呂に入ってね」と声をかけ、更衣等の支度は妻が行うなどの支援は必要。</li> <li>【IADL】 家事は洗濯物の取り入れ時間に妻に声をかけられると取り入れることができ、簡単な衣類やタオルならたたむことができるが、元にあった場所に整理することは不可。 ゴミ出しは分別が出来ていれば、収集日の定刻に声をかけると集積所まで持っていくことができる。</li> <li>・金銭管理や内服の管理は難しく、妻に頼っている。</li> <li>・買物は妻と一緒にいき、重たい荷物は本人が持つ。</li> <li>・炊事は、妻任せだが下膳は妻に声をかけてもらえば、機嫌よくシンクまで持っていく。</li> </ul>
<p>社会生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは地域活動を積極的にしていたが、認知症の診断を受けてからは避けている。</li> <li>・退職後から自治会長や老人会長など長年にわたり行ってきたことにより、地域の人がよく本人を知っており、外で見かけると皆が声をかけてくれている。最近では、薄々地域の人にも認知症であることに気づいている感じもある。</li> </ul>
<p>環 境</p>	<p>自宅前の環境は急な坂道があり、駅前まで徒歩で20分以上かかるが毎日、駅前まで散歩している。</p>
<p>嗜 好 品</p>	<p>コーヒー ※自宅付近：坂道が多く、自宅から駅前まで徒歩で30分かかっている（以前10分）</p>
<p>本人の意向</p>	<p>物忘れが少しでもましになればいいと思う。奥さんに申し訳ない思いでいっぱいである。</p>
<p>関心・興味</p>	<p>体操や運動、散歩など体を動かすことについては、物忘れの防止にも良いと興味を持っている。今の自分でも役に立つことがあるのなら、ボランティアなどしてみたいと関心を抱いている。</p>
<p>妻の意向</p>	<p>デイサービスに行くのがいいのか、もっと他に夫に合うサービスが合うのか知りたい。</p>